

18.10.30 日経

ブラジル次期大統領は経済再建に注力を

社説 2018/10/30 付

ブラジルの大統領選挙で野党・社会自由党のジャイル・ボルソナロ下院議員（63）が当選した。「極右」と評される過激な言動で知られ「ブラジルのトランプ」と呼ばれる人物だけに、民主主義の先行きを心配する声は多い。

ただ、同氏が選ばれた背景には長引く経済の低迷と積年の政治腐敗がある。経済と政治の両面でブラジルを立て直すため、次期大統領が成長重視の構造改革とガバナンス（統治）強化に注力することを期待したい。

かつて新興国の雄と目されたブラジルの経済は、2015年から2年連続でマイナス成長を記録した。17年以降も年率1%前後の低空飛行を続けている。

最大の原因は、14年半ばから原油など1次製品の国際相場が下がったことだ。ただ、他の資源国に比べても資源安の打撃が深刻なのは、03年から13年におよんだ労働党政権の政策が一因だ。

好況時にばらまきの経済運営に傾いた結果、資源安が国民経済にもたらす影響を増幅した面が大きい。労働党政権では国有企業を舞台に汚職が広がっていたことも明らかになった。

次期政権は、財政再建に向けた年金改革や硬直的な労働市場の改革など、中長期的な経済成長の底上げにつながる構造改革に取り組むことが求められる。国有企業を含めて政府のガバナンスを強化することも欠かせない。

ボルソナロ氏も、次期財務相候補のパウロ・ゲジス氏も、そうした改革を約束しており、経済界は今回の選挙結果を歓迎している。問われるのは実行だろう。

元軍人のボルソナロ氏は1964～85年の軍政をたたえたり、女性やマイノリティー（社会的少数派）への差別を公言したりしてきた。そうした言動を今後も改めなければ、社会の亀裂を深め政治の安定を損ないかねない。

むしろ、改革のしわ寄せが弱者に集中しないよう目配りすることが大切だ。政策の推進へ他党の協力を得るためにも、幅広く意見をくみ上げる姿勢が求められる。

経済危機に陥った隣国のベネズエラでは、ニコラス・マドゥロ大統領が力づくで独裁体制を築いている。対してブラジルは民主主義的な手続きに沿って政権が交代し、経済運営も転機を迎えた。

そんな民主主義の強みを肝に銘じて、ボルソナロ氏が政権を運営するよう望みたい。

18.10.30 朝日

「ブラジルのトランプ」誕生 国民、既存政治に諦めか

サンパウロ＝岡田玄、ワシントン＝青山直篤

2018年10月30日04時59分

ボルソナロ氏の主な発言

極右ポピュリストの大統領が南米でも誕生した。28日投開票のブラジル大統領選の決選投票で、元軍人ジャイル・ボルソナロ下院議員（63）が当選を決めた。「自国第一」や軍事独裁政権を賛美する過激な発言で知られ、異名は「ブラジルのトランプ」。人口世界5位の大国は、なぜこの候補を選んだのか。

ボルソナロ氏の主な発言

AFP時事

**ボルソナロ氏の主な発言**

軍事政権時代は、治安も経済もよかった。素晴らしい時代だった

独裁の間違いは拷問したのに、殺さなかったことだ

(女性議員に)あなたはレイプするに値しない

黒人の子孫は何もやらない。子どもを産む価値もない

軍警察はもっと(犯罪者を)殺すべきだ

ジャイル・ボルソナロ氏 (63)

- ・通称「ブラジルのトランプ」
- ・社会自由党
- ・極右、元陸軍大尉
- ・選挙のキャッチフレーズ「なによりもブラジル」
- ・結婚は3回目。5人の子どものうち、3人は政治家

SNSで一方向的に主張

「大メディアからずっと批判され、恥ずかしい思いもした。だが、どう変化すべきかを知

る皆さんが支持者になった。もう過激な左翼とつきあい続けることはない。ともにブラジルの運命を変えよう」。28日夜、当選を決めたボルソナーロ氏が最初にしたことは、フェイスブックを通じ、自宅から勝利演説をライブ配信することだった。

ボルソナーロ氏のフォロワーはフェイスブックが850万超、ツイッターも200万以上。既存メディアからの批判を「フェイク（偽）ニュース」と決めつけ、言いたいことはSNSで一方向的に流す。トランプ米大統領に似ているとされるボルソナーロ氏らしいやり方だった。

決め言葉「なによりもブラジル」は、トランプ氏の「アメリカ・ファースト」を思い起こさせる。「労働党は泥棒だ」「ブラジルの敵」。シンプルな言葉で、相手陣営をこき下ろすのもトランプ氏に似ている。当選後、電話で協議した2人は「両国の緊密な連携を確認した」とそれぞれツイッターに投稿した。

違うのは、政治経験の長さだ。…

18.10.29 朝日

「ブラジルのトランプ」 独裁賛美の極右候補が大統領に

サンパウロ＝岡田玄

2018年10月29日08時06分

写真・図版

リオデジャネイロで28日、大統領選での投票を済ませて支持者に向けて手を振るボルソナーロ氏＝AP

ブラジルで28日、任期満了に伴う大統領選の決選投票があり、極右の社会自由党の候補者で「ブラジルのトランプ」と呼ばれた元軍人ジャイル・ボルソナーロ下院議員（63）が初当選を決めた。33年前に民政移管を達成したブラジルで、それ以前の軍事独裁政権を賛美する人物が大統領に就任することになる。

ボルソナーロ氏は同日夜、勝利演説で「一緒にブラジルを偉大な国にしよう」と語った。選挙管理当局によると、開票率99・99%で、得票率はボルソナーロ氏が55・14%、左派・労働党のフェルナンド・アダジ元サンパウロ市長（55）は44・87%だった。任期は4年で、就任式は2019年1月1日にある。

ボルソナーロ氏は1985年まで約20年続いた軍事独裁政権を「よい時代だった」などと称賛。選挙戦では秩序と治安の回復を強く訴えた。市民による銃携行を主張し、「犯罪者

をたくさん射殺した警察官には賞を与えるべきだ」など過激な発言を繰り返した。

ログイン前の続き 2016年まで政権を担った労働党でルラ元大統領も関与した大規模な汚職事件が起きたことを指し、同党を「泥棒」「役立たず」などと批判。中間層などを中心に有権者を引きつけた。

ツイッターやフェイスブックなどSNSも駆使。遊説中だった9月上旬に暴漢に襲われて入院してからは、退院後も公に姿を見せず、病室や自宅などからツイートや動画投稿で主張を広めた。一方、左派陣営を攻撃するため、フェイクニュースの拡散に関与していた疑いももたれている。

また、女性や黒人、性的少数者などへの差別発言を続けており、ブラジルで人権抑圧が進むとの懸念もある。選挙戦を通じてブラジル社会の分断は深まっており、世論調査では国民の半数近くがボルソナーロ氏に拒否感を示していた。

ボルソナーロ氏は28日、当選後にトランプ米大統領から電話を受けたとツイッターに投稿した。米ホワイトハウスも発表した。トランプ氏はボルソナーロ氏の勝利を祝ったといい、2人は米州のリーダーとして緊密な連携を確認したという。(サンパウロ＝岡田玄)

18.10.30 NW

「ブラジルのトランプ」極右候補が大統領に選ばれた理由

Far-Right Jair Bolsonaro Elected Brazil's President

2018年10月29日(月)19時20分

ジェイソン・レモン

大統領選挙の投票日、支持者に手を振っていた極右候補ボルソナロ(10月28日、リオデジャネイロ) Ricardo Moraes-REUTERS

<汚職と失政の象徴となった左派政党に背を向け、ドラスティックな変化を求めた有権者がいやいやながら選んだ「もう1つの選択肢」>

ブラジル大統領選の決選投票が 10 月 28 日に行われ、極右のジャイル・ボルソナロ下院議員が左派のフェルナンド・アダジ元サンパウロ市長を破って当選した。

開票率 92%の時点で、得票率はボルソナロの 55.6%に対してアダジは 44.3%だった。ブラジルでは投票は義務となっており、約 1 億 5000 万人が票を投じたことになる。

マスメディアから「ブラジル版トランプ」とか「熱帯のトランプ」と呼ばれるボルソナロは 7 日の第 1 回投票の後、支持を大きく伸ばした。女性蔑視や同性愛者への嫌悪、人種差別をむき出しにした発言を繰り返してきたにも関わらず、決選投票を前にアダジとの支持率の差は 10%を超えていた。

ブラジルの政府機関に関する情報収集や監視を行っているジョタ社の北米ディレクター、アンドレア・ムルタは本誌に対し、ボルソナロの勝因はいくつかあるが、アダジを擁立した労働党 (PT) を支持する人々とそうでない人々との間の分断が深まっていることもその 1 つだと語った。

ムルタは最近の研究をいくつか挙げ「この数年、ブラジルでは『ペティスタ』(PT 支持者)と『反ペティスタ』との分断が深まってきた。今は反ペティスタ陣営のほう優勢なようだ」と述べた。「経済の現状と (高い) 失業率に鑑みればそれほど驚くことではない」

労働党=汚職のイメージ

またムルタはこうも述べた。「景気の下降局面では、有権者は最も最近政権を握っていた者たちに厳しい傾向がある」

ブラジル経済は 03 年から 8 年間にわたったルイス・イナシオ・ルラ・ダシルバ大統領の時代に「黄金期」を迎え、ルラは高い支持率を誇った。ルラの下でブラジル経済は急速な発展を遂げ、多数の国民が極貧状態から抜け出すことができたが、一方で汚職スキャンダルにより与党 PT のイメージは悪化した。ルラの後継者でブラジル初の女性大統領となったジルマ・ルセフは 16 年、選挙資金をめぐる不正で弾劾され、ルラも汚職罪で収監されている。

支持者や多くのアナリストは、ルセフやルラにかけられた汚職の容疑は左派指導者の信用を失わせるためのでっち上げだと主張する。にもかかわらず、スキャンダルにより多くのブラジル人が、PT に関わったあらゆる人を疑いの目で見えるようになってしまった。

「ルラとそれに連なる PT は汚職と失政の象徴になった。10 年以上にわたって与党だった PT を、多くの国民はブラジルが抱える問題の元凶だと見ている」と、大西洋協議会ラテンアメリカセンターのロベルタ・ブラガは本誌に語った。

ブラガによれば景気後退や暴力事件の増加、縮まらない社会格差を背景に、多くのブラジル人が「劇的な変化を望み、いわゆる既存の政治勢力に背を向けた」という。多くの有権者は性差別や同性愛者への差別、人種差別といった問題への懸念を抱いてはいたものの、そうしたテーマは今回の選挙ではあまり「重きを置かれなかった」。「安全や失業、経済成長」を巡る懸念のほうが大きかったからだ。

ブラジルの殺人事件の発生率は極端に高い。ウォール・ストリート・ジャーナルによれば、16年の人口10万人あたりの殺人事件数は、アメリカでは約5件だったのに対しブラジルでは30件近かったという。また、失業者の数は1300万人近くに上り、率にして12.1%。経済は元気がなく、GDPはマイナス成長だ。

だが「支持しない」と答える人が多いのはボルソナロもアダジも同じで、決選投票の当日までどちらに票を投じるか決めかねていた有権者は多かった。決選投票の数日前、ブラジリアのジャーナリストであるアランナ・フェレイラは本誌に「投票するかどうかわからない」と語っていた。

「どちらの選択肢もまったくいただけない」とフェレイラは言った。PTはあまりに長く政権の座にすぎたし、人権問題や環境問題に対するボルソナロの考え方にも懸念が残るといふのだ。

「少なくともボルソナロの経歴にはまだ『汚職』はないけれど」とフェレイラは皮肉交じりに言った。

#### かき消された人権や差別問題への懸念

ベロオリゾンテに住む大学院生、レナト・ナスルは本誌に、アダジに投票するつもりだが納得した上での決断ではないと語った。

「(労働) 党も最初は国のためにいいことをしたと思う。いくつもの社会政策を立ち上げ、最も貧しく恵まれない人々を救ってきたからだ。だがルラの2期目の終わりにかけて、経済問題が出てきてPTの経済面での失策が明るみになった」とナスルは言う。

だが一方でナスルは、ボルソナロへの投票を「道義的には正当化」することはできないと語った。「彼はあらゆる点で私の信条と反する」とナスルは言う。「彼は選挙運動中、例えばブラジルの人種的少数派や女性の権利を守る運動、LGBTの権利、労働者の権利といったものに強く異を唱えてきた」

9月末、フェミニズムの活動家たちはソーシャルメディア上でボルソナロへの不支持を訴える大規模なキャンペーンを開始した。だがこうした反発にも関わらず、ボルソナロは女性有権者の間でも支持を拡げた。

「女性有権者に対してボルソナロが問題を抱える可能性があるのは明らかだった」と、フェイスブック上のボルソナロ支持のコンテンツを追跡調査したサンパウロ大学のマルシオ・モレト・リベイロ教授は英紙ガーディアンに語った。「(だが) ボルソナロとインターネット上のボルソナロ陣営はこれに手を打った。ボルソナロは女性の味方だがフェミニストには反対しているという風に変えたのだ。危険な戦略だがそれが効を奏した」

ウッドロー・ウィルソン国際研究センター・ブラジル研究所のアンナ・プルザは、今回の選挙は「支持票ではなく不支持票」の選挙だったと語る。

「ブラジル国民は政府の失敗にいらだっていた」とプルザは言う。

ボルソナロは自分は汚職まみれの政界において「アウトサイダー」であり汚職とは無縁という印象を国民に植え付けることに成功した。

「これは『指導者ありき』の選挙だったように思える。有権者は政策を選ぶのではなく、自分たちの求める指導者に近い候補を探した」とジョタのムルタは言う。「まず候補者を選び、その後でその人の政策綱領を受け入れたわけだ」

ボルソナロは、既成勢力や制度・機関を激しく批判する選挙運動を展開した。ブラジル人が「民政移管以降、耳にしたことがないほど激しい体制批判だった」と語った。

「民主主義下で長年ずっと過ごしてきた国にとって、民主主義を脅かす直接かつ高いリスクに向き合うのは容易なことではないだろう」とムルタは言う。「だが報道機関や最高裁といった機関への攻撃は、『先にリーダーありき』型政治という文脈において懸念材料だ」

だがそのボルソナロも、法案を通すためには連立を組まざるを得ない。PTは、有権者の拒否反応にも関わらず、今もブラジル議会の多数を占める。極右大統領の権力をチェックできる立場にあるのだ。

ブラガは言う。「ボルソナロは好きと嫌いとはかかわらず、左派のブラジル社会民主党(PSDB)や中道のブラジル民主運動(MDB)、その他の中道右派や中道左派政党と組むことになる」

あとは、ブラジル国民がボルソナロに何を望むか、だ。

(翻訳：村井裕美)

2018.10.19

18.10.29 TBS

ブラジル大統領選、“ブラジルのトランプ氏”が勝利

2018年10月29日 19時15分 TBS

ブラジル大統領選、“ブラジルのトランプ氏”が勝利

南米ブラジルで28日に行われた大統領選挙。次期大統領に選ばれたのは、「ブラジルのトランプ」と呼ばれる人物でした。アメリカのトランプ大統領にも負けない、その過激な発言とは。

28日、警察官に囲まれながら投票所に現れた自由社会党の“極右候補”、ジャイル・ボルソナロ下院議員（63）。先月、遊説に向かう途中にナイフで腹部を刺され、一時重体となりましたが、回復。選挙戦を優位に進めました。そのボルソナロ氏は、これまでの数々の過激な発言から、「ブラジルのトランプ」と称されていました。

「私をレイプ犯呼ばわりしたが、あなたは（レイプされるほどの）価値は無い」（自民社会党 ボルソナロ下院議員 2014年）

「武器は私たちの命を守る以上に自由を守るものだ」（自民社会党 ボルソナロ下院議員 今年7月）

それでも、ボルソナロ氏への支持は手堅いものでした。ブラジルでは、左派政権のルラ元大統領も巻き込んだ一大汚職事件が記憶に新しく、「汚職撲滅」を強く訴えたボルソナロ氏への追い風となったのです。

「汚職政治を国民が一番嫌うが、私はクリーンだ」（自民社会党 ボルソナロ下院議員）

そして28日、左派・アダジ元教育相との決選投票を55%あまりの得票で破り、次期大統領に選出されました。

「ブラジルを偉大で自由で繁栄した国家にするため、変革するのです」（当選したボルソナロ氏）

「勝利が伝えられると、支持者たちから大きな歓声があがりました」（記者）

「今までの政権はブラジルの価値を奪い取った」(ボルソナロ氏 支持)

「ブラジル人はボルソナロと歩むことで、価値を取り戻す」(ボルソナロ氏 支持)

ボルソナロ氏の自宅周辺は支持者で埋め尽くされ、花火も打ち上げられました。

「私たちのような貧しい人は人権すら無くなる。肩身が狭くなる」(ボルソナロ氏 反対)

一方、反対する人々によるデモも行われました。

南米でも新たに生まれた極右のリーダー。ボルソナロ氏は来年1月1日、大統領に就任します。(29日 16:33)